当社関連資料

電波 新聞
平成26年7月29日 8面掲載

ケーブル技術ショー

独自の情報伝送技術
革新的な事業展開に力

DXアンテナ

DXアンテナは、情報伝送システム企業として革新的な事業展開に力を入れる。「ケーブル技術ショー2014」では、同社独自の情報伝送技術を用いた「次世代情報配信プラットフォームDX マルチキャスト」をケーブル事業者向けに、ラ

イフライン・福祉・地域情報サービスなど、様々なソリューションとサービス例を実働を交え、提案する。

併せて、局舎のヘッドエンド設備が被災した場合に局舎機能を応急的に復旧させ、地域住民に早く情報を届けることを可能にした同社独自の「可搬型緊急用ヘッドエンド」など、先進的なシステム・製品も会場で提案する。

このほか、同軸ケーブルに放送波とIPデータを多重化できる高速同軸モデムEOC（参考出品／今秋発売予定）、低受光対応、低消費電化を図った放送用光加入者端末V-ONUも紹介。

拠点展示会でのマルチキャスト紹介風景

DXマルチキャストは、同社独自の統合型・情報配信プラットフォーム。情報送出局に“DX メディアサーバ”、家庭に“DXメディアゲートウエイ”を追加するだけで、新たな付加価値サービスの提供が可能となる。

例えば、緊急地震速報、津波警報、河川氾濫情報などの特別警報を瞬時に対象世帯に配信・周知できる。自治体の関心が高い高齢者福祉対策サービスへの応用も検討している。

配信された情報はDX メディアゲートウエイに蓄積され、いつでも家庭のTVで確認できる。また内蔵の無線LAN機能により、スマホやタブレットなどの移動通信端末でも見ることができる。

会場では「緊急・防災情報配信」「ニュース情報・地域情報」「ライブカメラ映像・サイネージ情報」配信デモを行う。受信機である“DXメディアゲートウエイ”は、スピーカが内蔵され、音声でのガイダンス機能、LED表示機能、オプションでフラッシュライト・回転灯による視覚的な警告表示機能も追加できる。

ブース見どころ